

令和5年度 第3回静岡市食育推進会議 会議録

- 1 日 時 令和6年2月8日(木) 午後7時00分～午後8時30分
- 2 場 所 静岡市役所新館 低層棟3階 茶木魚
- 3 出席者
(委 員) しずおか市消費者協会 青木良子委員、市民委員 梅木幹子委員、
静岡市校長会 小田泰子委員、静岡市清水医師会 門田景介委員、
静岡県栄養士会 久保田美保子委員、静岡県立大学 桑野稔子委員、
市民委員 杉浦元昭委員、静岡市公立こども園園長会 水谷智美委員、
静岡市食生活改善推進協議会 渡邊良子委員 (五十音順) 計 9名
※(株)創建(次期計画策定委託業者)はリモート参加
(欠席: 関東農政局 荒田耕士朗委員、静岡市静岡歯科医師会 木下博雄委員、
市民委員 新谷琴美委員、静岡商工会議所 松永秀昭委員、
静岡市農業協同組合 三津山定委員、由比港漁業協同組合 宮原淳一委員)
(事務局) 保健福祉長寿局 健康福祉部
健康づくり推進課 宮崎課長、大勝総務係長、望月主任栄養士
- 4 傍聴者 なし
- 5 議 事 (1) 第4次静岡市食育推進計画素案に対するパブリックコメントの結果につ
いて
(2) 第4次静岡市食育推進計画(最終案)について

6 会議内容

事務局(司会)

議事の進行は、静岡市附属機関設置条例第6条第3項の規定により、議事の進行役である議長の桑野会長にお願いいたします。

桑野議長

それでは、ここからは私が議事の進行を務めさせていただきます。円滑な議事の進行に皆様、ご協力をお願いします。会議は公開といたします。なお、本日の会議の傍聴者はありません。

それでは、次第2 議事(1) 第4次静岡市食育推進計画素案に対するパブリックコメントの結果について、事務局よりお願いいたします。

事務局

パブリックコメント実施期間は、令和5年11月24日から12月25日までの約1か月間でした。委員の皆様にもご意見をいただき、ありがとうございます。

募集結果は、意見提出者数46人、意見件数は48件となりました。内容は、主に計画案の第4章の基本施策に関するものが多かったです。

パブコメを受けて計画に反映したものは7件、すでに計画に登載済みのものが6件、今後の取組の参考とさせていただくものが28件、その他、市への要望や感想といった内容のものが7件となりました。

ご意見をいただいた年代ですが、今回は静岡大学の学生さんのご協力もありまして、主に20代の若い世代の方が中心となりました。

まず「第1章の計画の基本的な考え方」として、「SDGsと食育」との関係についてのご意見を2件、いただきました。

食育のどのような点が、SDGsのどの項目と関係してくるのか明記したほうがよい、というご意見をいただきましたので、計画5ページのSDGsとの関係の部分と計画28ページの食育推進計画の体系の中の各基本方針に関するSDGsのマークを入れさせていただきました。

食育の推進は、国の「SDGsアクションプラン」の中に位置づけられており、SDGsの達成に寄与するものであるとされています。また、国の第4次食育推進基本計画においては、関係するSDGsを目標2：飢餓をゼロに、目標4：質の高い教育をみんなに、目標12：つくる責任、つかう責任、この3つが食育と関係が深い目標として挙げております。

静岡市では、この3つの目標の他にも、目標1：貧困をなくそう、目標3：すべての人に健康と福祉を、目標14：海の豊かさを守ろう、目標15：陸の豊かさを守ろう、目標17：パートナーシップで目標を達成しよう、を加えて推進していくことを考えております。

続いて「第2章の食をめぐる現状と課題」として、ご意見を4件いただきました。その中で、主な意見としても挙げさせていただきましたが、「共食」に関するものがありました。「毎日1回以上、家族や友人等と一緒に食事をする市民の割合」が低いことを市の課題としているが、一人で食事することを好む市民もいると考えられるため、彼らの自由を阻害するような課題を立てることは望ましくない」というご意見です。

「共食」に関しては、これまでも様々なご意見をいただいております。一人で食べることしかできない状況にある市民の方のことを考えていないのではないかと、といった声もありました。家庭環境や生活の多様化により、家族との共食が難しい場合があることから、地域において様々な世代と共食する機会を持つことは、食の楽しさを実感するだけでなく、食や生活に関する基礎を伝え、習得する観点からも重要だと言われております。誰かと一緒に食べることを目的とするのではなく、農林漁業体験等と併せて実施するなどの工夫をしてご理解いただけるように取り組んでいきます。

続いて「第3章の基本理念と計画の視点」として、ご意見を2件いただきました。その中で、主な意見としても挙げさせていただきましたが「食育ピクトグラム」が非常に分かりやすいのご意見をいただき、早速、こども園課の担当と共有しました。次年度から、園の食育だより等で使用をしていくとのことでした。

続いて「第4章の食育施策の展開」として、ご意見を40件いただきました。その中で、主な意見としても挙げさせていただきましたが、学校給食に関するものが多い印象でした。若い世代の食育の普及啓発・情報発信のご意見として、こどもをターゲットとした食育活動は早い段階で食に関する土台を作るのにとっても効果的であり、さらに栄養バランスのとれた学校給食メニューを保護者の方々にも発信してほしい、という声をたくさんいただきました。学校給食課と共有し、学校給食のウェブサイト「おいしい静岡いただきます」において、各学校給食施設の献立や給食メニューレシピの公開、また地産地消情報や栄養士がブログ形式で投稿する記事などの掲載を引き続き行っていきます。

続いて「環境に配慮した食生活の実践」のご意見として、フードロスという問題を主にけん引しているのは、飲食店などの団体であると考えて、よって、協力していただいた団体には少し援助するなど何か団体向けの施策が欲しい、とのことでした。

ごみ減量推進課と共有し、食品ロス削減に取り組む飲食店をPRする「シズオカ食べきり協力店制度」を令和元年度から運営しており、この制度の運用により、飲食店と協力して食品ロス削減の取組を進めていきます。

他のご意見としては、若い世代を対象にした食に関する情報発信は非常に重要であるが、若い世代は時間がないことが多く、自ら食に関するイベントに参加することや健康食に取り組む飲食店の利用、また食の情報は関心がなければ入手しない、といったご意見もあり、今後の取組の参考にしていきたいと思っております。

他には、朝食を欠食する人の中には家庭の経済状況も関連しているのではないかと、また若い世代の食に関する課題の原因は、栄養に関する知識不足ではなく、時間とお金の不足が多く占めるのではないかと、などのご意見もありました。一人暮らし向けのカット野菜をスーパーで売ってほしい、また野菜・果物は高いので物価を下げてほしいといった学生の声がありました。

若い世代の食の取組には、このような課題についても考慮していく必要があると感じています。

このように食に関する課題は幅広くありますので、関係課や関係団体様と共有して、食の取組の参考にしていきます。

桑野議長

ただ今の報告について、ご意見等ありましたら、お願いします。

私から一点、よろしいでしょうか。

先ほど「第2章の食をめぐる現状と課題」の中で、「共食」についてはなかなか実践することが難しいと考えている市民もいらっしゃるということですが、例えば、高齢者においては、家族や友人等と一緒に食事をする事で脳機能がアップするといったエビデンスが出ているわけです。

また、私の研究で論文化しているのですが、小学生の子どもについても、一緒に食事をとっていない家庭の子どもの問題行動が多いということもエビデンスとして明らかとなっています。

一人で食べる事しかできない状況の方もいらっしゃると思いますが、目標には家族だけではなく友人等と一緒に、という書き方になっているので、このようなエビデンスもお知らせし、自身のためにも良いことがある、ということも含めて周知をしていただけたら良いのではと考えます。

また国の計画においてもきちんと共食の重要性について示されているため、静岡市だけが共食は良くないというのもどうかと個人的な感想として感じています。

その他どなたか何か気づいた点などございますでしょうか。ご意見が出ないようですので、次の議事にうつりたいと思います。

それでは、議事（2）第4次静岡市食育推進計画最終案について、事務局よりお願いいたします。

事務局

事前資料として送付させていただきましたが、さらに変更となった部分があります。素案からの変更と合わせて説明をお聞きください。

それではお手元の最終案の3ページをお開きください。こちらは「計画の位置づけ」となっています。その中に静岡市の食育推進計画と整合性を図るものが12計画あります。その中の下から二つ目の「静岡市教育委員会食育推進計画」ですが、今までは市の食育推進計画と併せて、学校給食の計画を作ってきましたが、次年度より「静岡市立小中学校における食育推進ガイドライン」として推進していきます。ガイドラインにつきましては、本計画と同様に学校給食課で作成中でありますので、完成したところで情報提供させていただけたらと思います。

続きまして最終案の28、29ページをご覧ください。こちらは「食育推進計画の体系」です。変更したところは29ページの主な取組の中に、次期計画で新しく登載する事業を「新規」と追記しております。

続きまして、最終案の30ページをご覧ください。こちらは「第4次食育推進計画の数値目標」となります。

目標No.4、5「食事を一人で食べる子どもの割合（朝食）（夕食）」について追加しました。こちらの目標は、静岡市健康爛漫計画（第3次）と整合性を図り、食事を一人で食べる子ども

もの減少を目的に、6～12歳の学童期を対象に設定しました。

朝食の現状値は、9.5% 目標値を8.5%以下としております。

夕食の現状値は、2.9% 目標値を2.5%以下としております。

子どもの共食につきましては、学校給食課の「食に関する指導」や各区役所健康支援課の「おやこ食育教室」等を中心に推進していきます。

続きまして、目標13「高齢者のやせの割合」について追加しました。

こちらにも健康爛漫計画と整合性を図り、65歳以上のBMI20以下の割合の減少を目的に設定しました。現状値は、22.8% 目標値を17%以下としております。

高齢者のやせにつきましては、高齢化率が年々あがってきていることもあり、課題としてしっかりと受け止め、取り組んでまいります。静岡市食生活改善推進協議会の「高齢者向け教室」や各区役所健康支援課の「元気で長生き栄養講座」等を中心に推進していきます。

続きまして、目標26～28の学校給食に関する目標について追加しました。

- ・栄養バランスに関わる食育を、栄養教諭・栄養士を活用して実施した割合
- ・学童期や思春期に関わる食育を実施した学校の割合
- ・食べ残しや食品ロスに関わる食育を、学校給食と関連させて実施した学校の割合

の、3つの数値目標を学校給食課よりいただきました。

- ・栄養バランスについては、現状値は、71.9% 目標値を100%
- ・学童期や思春期に関わる食育は、現状値は65.9% 目標値を80%以上
- ・食べ残しや食品ロスに関わる食育は、現状値は68.6% 目標値を80%以上

学校給食関係の目標が入りましたので、今後は調査等においても学校給食課と連携して実施していきたいと思っております。

続きまして、32、33ページをご覧ください。こちらは「ライフステージに応じた食育の推進」について修正しました。素案から変更になった点を中心に説明します。

(1) 栄養バランスに配慮した食生活の実践

学童期以降の「適正体重を知る」「適正体重を維持する」は削除しました。

(4) よく噛んで食べることや楽しく食べる経験を通じた食生活の推進

2段目の壮年期、高齢期の部分になりますが「食べ方のマナーを次世代に伝える」と変更しています。

(5) 食育の普及啓発・情報発信

2段目の高齢期の部分の「広報やパンフレットを活用し、多様な情報を収集する」を、思春期から高齢期まで「ホームページやSNSなどを活用し、多様な情報を収集する」にまとめました。高齢期の方でも、SNSなどをうまく活用されている方も多いため、変更しました。

(6) 規則正しい食習慣の実践

2段目の青年期の部分については「朝食のメニューを知り実践する」から「栄養バランスよい朝食を理解し、実践する」に変更しました。

また、同じく2段目の壮年期の部分で「家族などと朝食を食べる」については、高齢期まで伸ばして、共食についても意識していただけるように変更しています。

(7) 環境に配慮した食生活の実践

学童期以降ですが「食品ロス削減」の他に「環境に配慮した農林水産物、食品」という言葉を追記しました。

(10) 食文化の継承

一番下の段となりますが「茶葉から入れた緑茶に親しみ、自ら入れられる習慣を身につける」は、素案では青年期までとしておりましたが、市民アンケートの結果からも、茶葉から入れた緑茶を飲む年代が、だんだん上がっていることもあり、壮年期まで伸ばしました。

変更となっている点は以上となります。

続きまして「基本施策ごとの主な取組」についてご説明させていただきます。最終案の34、35ページをご覧ください。「栄養バランスに配慮した食生活の実践」についてです。変更した点は、34ページ主な事業、二つ目の「ヘルシー食 de ブランディング 飲食関係者向け専門講座」に「新規」と追記しております。

続きまして、最終案の36、37ページをご覧ください。「適正体重や減塩等に配慮した食生活の実践」についてです。変更した点は、36ページ主な事業五つ目の「市場料理教室」に「新規」と追記しております。また「高齢者のやせ」についての目標が入りましたので、37ページに静岡市食生活改善推進協議会の「高齢者向け教室」を紹介しております。「栄養魚釣りゲームの様子」の写真をご提供いただきましたので、教室の楽しそうな様子をご覧くださいただけかと思えます。合わせて、フレイルについての説明も掲載しています。

続きまして、最終案の38、39ページをご覧ください。「食品の安全・安心に関する知識の習得」についてです。今回変更した点はありませんが、食の安全教室や手洗いの動画、食物アレルギーに関する情報などを、二次元バーコードから見るできるように作成しています。

続きまして、最終案の40、41ページをご覧ください。「よく噛んで食べることや楽しく食べる経験を通じた食生活の推進」についてです。変更した点は、40ページ主な事業、三つ目の「1歳頃のむし歯予防教室」と五つ目の「シニアカフェ」に「新規」と追記しております。41ページではこの事業を含む三つの事業紹介と「子ども食堂」についての説明を掲載させていただきました。シニアカフェや子ども食堂など「楽しく食べる経験」ができる機会を全ての年代の方々に提供できるような取り組みを増やしていけたらと思います。

続きまして、42、43ページをご覧ください。「食育の普及啓発・情報発信」についてです。

今回変更した点はありませんが、43ページには学校給食課のウェブサイトについて紹介しています。令和4年からスタートしたこのウェブサイトですが、年々いろいろな情報を追加していくようですので、多くの皆様にご覧いただけたらと思います。

続きまして、44ページをご覧ください。こちらは保健所食品衛生課の食の安全・安心ホ

ームページ「たべしずねっと」についてです。特に、たべしず動画は新しく開始しておりますので、こちらも多くの皆様にご覧いただけたらと思います。45 ページは水産漁港課の「しずまえ新聞の発行」です。こちらは紙媒体となりますが、公立の全小中学校の児童、生徒の皆様へ配付しています。私立校には学校配付となりますが、情報提供をしています。静岡県 HP に、バックナンバーを掲載しておりますので、どなたでもご覧いただけます。

その下の「災害時のための備え」として、ローリングストック法を紹介し、合わせて農林水産省の「災害時に備えた食品ストックガイド」について掲載させていただいております。

続きまして、46、47 ページをご覧ください。「規則正しい食習慣の実践」についてです。目標指標には、学校給食の「栄養バランスに関わる食育を、栄養教諭・栄養士を活用して実施した割合」と「学童期や思春期に関わる食育を実施した学校の割合」を追加しています。47 ページには学校給食課の「食に関する指導」について紹介しています。カルシウムについての実践例を掲載していますが、この食に関する指導の内容について、学校給食のウェブサイトから保護者の方と再度みることができますので、親子で楽しく学べる機会となっています。

続きまして、48 ページをご覧ください。こちらは、当課の若い世代を対象とした事業紹介です。また 49 ページには、私立幼稚園連合会から事業紹介をいただきましたので、掲載させていただいております。

続きまして、50、51 ページをご覧ください。「環境に配慮した食生活の実践」についてです。50 ページ主な事業のところに三つ、「新規」のマークを追記しております。今回、エシカル消費に関する事業が新しく入ってきておりますので、「エシカル消費」についての説明をこのページに入れたいと考えております。また、学校給食課の「食べ残しや食品ロスに関わる食育を、学校給食と関連させて実施した学校の割合」を追加する予定です。51 ページには、ごみ減量推進課の取り組みや、食生活改善推進協議会の皆様の活動についてご紹介させていただいております。農林水産省の「みどりの食料システム戦略」については関東農政局より内容のご提供をいただきました。

続きまして、52、53 ページをご覧ください。「地産地消の推進」についてです。主な事業の四つ目「ガストロノミーツーリズム推進事業補助金」について、「新規」のマークを追記しています。ガストロノミーツーリズムについての説明は、52 ページ下に追記しています。53 ページには学校給食課の「地場産物を取り入れた献立の提供」についての紹介、続いて 54、55 ページには、農業政策課や水産漁港課による取り組みの紹介を掲載いたしました。

続きまして、56、57 ページをご覧ください。「農林漁業生産者と消費者との交流」についてです。57 ページには、水産漁港課の「しずまえ漁業見学ツアー」やこども園の食育の取り組み報告から、農業体験の様子を紹介させていただきます。また、コラムとして、農林漁業体験のメリットを掲載します。

続きまして、58、59 ページをご覧ください。「食文化の継承」についてです。主な事業の四つ目の「食育ボランティア人材養成講座」について、「新規」のマークを追記

しています。59 ページには、お茶に関する取組について掲載しました。60 ページをご覧ください。「『桜海老の沖あがり』が文化庁の 100 年フードに認定された」というコラムを掲載しました。文化庁では、日本の多様な食文化の継承・振興への機運を醸成するため、地域で世代を超えて受け継がれてきた食文化を 100 年続く食文化「100 年フード」と名付けて、継承していくことを目指す取り組みを推進しているそうです。これまでに、201 件の食文化が認定されているそうですが、静岡市だと、静岡おでん、桜海老の沖あがりも認定されているようです。

60 ページ下には、食育ボランティア人材養成講座の取り組みを紹介しています。ピンクの T シャツを着ているのは、食生活改善推進協議会の皆様です。この事業は今年度から開始しておりますが、受講者の皆さんは食推さんの活動に大変興味をもっておられる方が多くいました。今後もこの講座を通して、食に関するボランティア人材が増えていくように取り組んでまいります。

以上で計画の主な内容について変更した点を中心に説明させていただきました。

第 4 次静岡市食育推進計画の特徴ですが、まず、栄養バランスに関しては食を提供する側にも健康という付加価値をつけていただく取組を推進し、自然に健康になれる食環境づくりを推進していきます。また、適正体重や減塩等については、指標に摂取量ややせの項目を追加するなど、より具体的に推進できるようにしていきます。さらに、デジタル化に対応した食育の推進ということで、各取組等については二次元バーコードを示すようにしています。環境に配慮した食育としては、エシカル消費に関する事業等、新規事業も増えていますので、市民の方に広く周知していけるようにしていきます。

主に、このような特徴を持って、7 年間推進していきます。中間見直しでは、国の食育推進基本計画や市の総合計画等を反映し、指標や取組について見直しをしていく予定です。

続きまして、第 4 次静岡市食育推進計画の表紙案をご覧くださいませでしょうか。表紙案は基本理念にありますように「しずおかのつながり」や「みんなでおいしく」というサブタイトルから、静岡の食材として代表的なお茶や折戸なす、みかん、桜えびなどをちりばめて、全世代が笑顔でつながりをもっていくというようなイメージで作成させていただきました。

以上で、最終案の説明を終わります。

桑野議長

それでは、ただいまのご説明につきまして、ご意見ご質問等ありましたらお願いします。

小田委員

昨年度まで学校給食課にいたためどの立場から話をしているのか迷うところもありますが、よろしく申し上げます。まず、学校給食課のウェブサイトのことについて掲載していただきありがとうございます。

一点、第4次食育推進計画の数値目標ですが、朝食を欠食する若い世代の割合ということで、学童期の現状値が4.2%、思春期の現状値が17.2%で、それぞれの目標値が0%となっております。これは、すごく力を入れてやっていくのだと感じたのですが、施策を見せていただいた時、高校生に向けた「毎日元気 de おはようレシピ」のリーフレット配付や学校給食課の食に関する指導の充実ということを中心に推進していくとは思いますが、目標値を0%とすることは、非常に難しいのではないかと感じてしまいます。子どもによっては家庭の事情により、どうしても本人の努力では成り立たない事案というところもありますし、思春期の中学生くらいになりますと聞こえてくる声は、とにかく朝はギリギリまで寝ているので、とても食べている時間はないということです。養護教諭なども密に指導をしてくれていますが、なかなか難しいなと現場にいると実感としています。

それで20～30代をみると、20代は現状値が29.9%、目標値が25%以下、30代は現状値が22.3%、目標値20%以下と、それぞれ目標までが緩やかですが、学童期・思春期の目標値が0%という非常に目についてしまいまして、何か施策があるのか、また0%とした根拠があれば知りたいと思います。

事務局

朝食に関しては学童期・思春期の目標値を0%と設定しております。これは、静岡市健康爛漫計画においても乳幼児、学童期、思春期すべてにおいて目標値を0%としています。国の食育推進基本計画においても、朝食を欠食する子どもの割合の目標値を0%と設定しています。朝食を毎日食べることは、栄養バランスに配慮した食生活や基本的な生活習慣を身に付ける観点から非常に重要であるため、子どもの朝食欠食をなくすことを目標とすると国の計画でも示されております。様々な家庭の事情がある中で、難しい目標とはなりますが、目標値を0%と設定をさせていただいております。

朝食欠食に関する施策については、関係課等と連携して進めていこうと考えております。今後ご協力お願いいたします。

桑野議長

子どもの朝食欠食の目標値0%については、いろいろなところで議論になるところで、本当に0%となることは難しいのですが、やはり学童期・思春期は0%にしたいということで、目標値を0%にせざるを得ないという観点から設定していると思います。

他にご意見はございますでしょうか。

杉浦委員

第4次食育推進計画の数値目標のNo.26、27ですが、No.26の「栄養バランスに関わる食育を、栄養教諭・栄養士を活用して実施した割合」の目標値を100%としているのですが、こ

れについては実現可能だと思います。No.27 の「学童期や思春期に関わる食育を実施した学校の割合」の目標値を 80%としています。No.26 と比べて低くないでしょうか。

桑野議長

こちらは学校給食課からいただいたデータだと思いますので、学校給食課へこのようなご意見が出たということをご報告していただけたらと思います。

事務局

学校給食課にきちんと確認ができておらず申し訳ありません。学校給食課と共有し、またご報告をさせていただきます。

桑野議長

貴重なご意見ありがとうございます。その他、ご意見はございますでしょうか。

久保田委員

ライフステージに応じた食育の推進ですが、(1) 栄養バランスに配慮した食生活の実践の中で「栄養バランスを考えた食事を心掛ける／野菜料理をたっぷり食べる」については、乳幼児期から高齢期までずっと続いているのですが、私たちはその下にフレイル予防が入ったので、65 歳以上についてはやはり食べ方を切り替えるということを推奨しています。

例えば、低栄養を防ぐという観点から、たんぱく質などを強調してしまうと、そうでない人も病気の人もいて難しいのですが、野菜を食べるといって、野菜だけ食べて良しとなってしまう、高齢者のたんぱく質の不足などが実際に起こっているため、年代に合わせとか、今の自分の状態に合わせたなどの表現に変更したほうが、栄養バランスというより適切ではないかと思います。

事務局

基本施策(2) 適正体重や減塩等に配慮した食生活の実践において、高齢期の部分にフレイル予防を入れさせていただいておりますが、それと合わせて(1) 栄養バランスに配慮した食生活の実践においても、高齢期に適切な量をとということで明記をしたほうが、さらに意識づけができると思います。そのように修正できるよう検討させていただきます。

桑野議長

貴重なご意見ありがとうございます。その他、ご意見はございますでしょうか。

渡邊委員

今年、5 回ぐらい高齢者の教室に行きまして、やはり高齢になったらたんぱく質は少なく

ていいと思っている高齢者がほとんどです。もう年だから、お肉も若い人の半分でもいいとか、卵も1日1回食べたからもう今日たんぱく質はいらないというような考えの方がすごく多いです。

よって私たちはパワーポイント等で、たんぱく質の量は若い人も高齢者も一緒なんですよとお伝えすると、皆さんがびっくりされるのですが、そういう知識がきちんとできていないということもありますので、高齢者に分かりやすく書いてくださると、もう少し浸透するかなと感じます。

もう一点、朝食欠食もそうなのですが、やはり1日3回きちんと食べるということはすごく大事ではないかと思います。また、朝食食べてきても、栄養バランスが良くないと思います。明日、放課後子ども教室に行くのですが、子どもたちに朝、何を食べてきた？と聞くと菓子パン一つとか、おにぎりとかそのような声が多いです。今、若いお母さんたちは皆さん働いていらっしゃるの、なかなか栄養バランスまで配慮ができず、学校に登校させている家庭も多いと思いますので、やはり栄養バランスは大事かなと感じます。

また、3食きちんと食べることも私は重要だと思います。学校から帰るとおやつを食べてしまい、夕食が食べられないとか、寝る前に何か食べてしまうなどということも聞いたりしますので、栄養バランスについてゲーム感覚で事業をやったりすると、子供たちは本当に楽しそうにやっています。ぜひそういうことも奨励していただきたいと思います。

たくさんの推進計画を立てていただきましたが、実行性を高めるにはやはり関係者同士の連携を推進する必要があります。保健師さんや学校など、色々な方面と連携することが食育推進を高めていくのではないかと思います。

事務局

他職種と連携するということはとても重要だと思いますが、栄養士から発信していくことがなかなかできていなかったと感じます。

青木委員

私たちは主婦が集まった団体です。朝食を食べない人は大人になっても食べないという話もありますが、なかには、朝、ウインナーを一つ食べていくとか、菓子パンを一つ食べていくということも、朝食をとったということになります。朝食を食べましょうといっているが、そのような点が問題ではないかという話ができました。

また、栄養バランスについても、年をとったら食べなくてもいいのではないかということも問題の一つだと思います。

私は消費者協会の中の静岡友の会に所属していますが、1日にどれだけ食べたらいいのだろうという栄養の一覧表があり、私たちはそれが身につけているので、今日足りなかった栄養があれば、明日とればいいということが出来ます。食育のところでこのように1日にどれだけ食べたらいいかということは指導されているのでしょうか。ただ、食べましょうでは

理解できないと思います。年代によって必要な量を知ることが健康を維持することにつながります。1日に必要な摂取量もつけて指導されたいと思います。

事務局

私たち市の栄養士は食事バランスガイドを使用して、主食、主菜、副菜が何皿とればいいのか、料理の写真などを使用して分かりやすく説明をしております。小さい子どもさんには、3色の栄養素を使い、色々な食べ物を3色のお皿にのせたりして、楽しんでいただけるようにお伝えしています。対象者によって栄養バランスの伝え方も工夫しながら説明をするようにしております。さらに分かりやすく発信していけるように、栄養士間で検討していきたいと思います。

桑野議長

ありがとうございます。その他ご意見等ございますか。

梅木委員

この膨大な最終案、本当に素晴らしい計画で、すごいなと思いました。7年間でその目標を実施していくということなのですが、SDGsの持続可能な開発目標でもある「誰一人取り残さない」というところで、いかに周知、情報発信して、実際に計画を実施していくかというところが問題だと思います。渡邊委員からも話がありましたが、他職種と連携してというところが非常に大事だと思うのですが、企業さんとの連携もしていただけたらと思います。特に、スーパーやコンビニなどのディスプレイなどで目を引くような、例えば、朝食を簡単にしっかり取れるセットとか、具体的なものが目につくと分かりやすいのではないかと思います。

また、若い世代の特に高校生や大学生の食事の問題がありますが、どうしても学校給食がなくなって、ネックのなっている世代だと思います。そこで大学でしたら学食などがもう少し充実してくれたらいいと思います。10年前に学食巡りをしていたのですが、ある大学はトイカみたいなカードで保護者が料金をチャージして、学食でしか使えないという形なので食事がしっかりとれるようになります、また食事の内容も保護者がわかるようになっているという、そういう学食もありました。素晴らしいなと思いましたし、10年前ですけれども、レシートにカロリーが表示されたりしていました。

静岡ではあまり学食巡りをしていないのですが、このような取組を具体的にやっていったらいいのではないかと思います。

事務局

高校生や大学生等に対しての取組ってというのは、すごい大事だと思います。パブリックコメントでも静岡大学の学生さんにご協力いただいたのですが、やはり内容をみてみますと、自身の栄養バランスが整っていないと感じている方が多く、そこを改善したいという気持ち強い印象がありました。そのような課題をしっかりと受け止め、当課の若い世代に向けた事業もありますので、大学や高校等と連携して行っていきたいと考えておりますので、皆様、ご協力よろしく願いいたします。

桑野議長

ありがとうございます。その他、ご意見等ありますでしょうか。

水谷委員

ライフステージに応じた食育の推進の（５）食育の普及啓発・情報発信のところに「保護者が食に関する正しい知識に配慮し、子どもに伝える」がありますが、今、若いお母様方がすごく多いので、「保護者が食に関する正しい知識に配慮し、子どもに伝える」ということがすごく難しいと感じています。最終案 P42 の基本施策の中に、「公立こども園における食育推進事業」がありますが、保護者の意識がどうしても低いという方も多いです。意識を高めていけるように、私たちの立場で子どもも巻き込んでいかなければいけないと感じるのですが、情報発信だけでは紙ベースとなるので、なかなか伝えきれないところがあります。うちの園も毎月１回、食育の日ということで、色々なことをやっていますが、それもドキュメンテーションに伝えてはいますが、なかなか伝わりにくいところがあります。

先日、子供たちにだしを味わうということをやってもらいましたが、それを子どもだけではなく、保護者も一緒に巻き込んでやって、どこでその味を一番味わったか、ということをやってみました。ただ、子どもはいろいろなところで味わうんです。目とか口とか頭とか耳とか、子供ってすごいんです。やはり実際に実体験でやっていくことで、食への意識が高まり、興味が沸いてきたような感じでありました。

私たちの立場としては保護者も巻き込んで実体験といった色々なやり方を工夫して、食育の普及啓発・情報発信について高めていけたらいいと、本日説明を聞いてつくづく感じました。

門田委員

朝食にお金をかけられない、時間もないというようなお母様たちが多いということから、SDGs の飢餓をゼロにということもあるのですが、朝食を食べられないで学校に行く子どもというのはひもじい思いをされていると思いますし、それが普通になっているということです。食事が３食用意されて、さらに栄養バランスまで考えられているというのは 100 点満点の朝食かもしれませんが、朝食に菓子パンでも食べていくというのは、最初の目標として

は大事なことではないかと考えます。いきなり 100 点満点を目指せというのは、現状とかけ離れた目標となり、尻込みしたり、反発してしまうお母様たちがいるのではないかと感じます。少し若い方に寄り添った計画を立てていただけたらいいかと思えます。

もう一つは、あまり冊子で読むという方が少なくなっている中で、表紙にいきなりというのは少し抵抗があるかもしれませんが、冊子の一番前のところにQRコードで何か媒体として内容に入りやすくするようものがあるといいかなと思います。基本施策のところの記事に至った方は、参加してみたいということでQRコードなどから参加しやすいようになると思えます。また連絡先や具体的な案内があるといいかなとも思えます。

事務局

100 点満点を目指しがちになるのですが、色々な方々に寄り添いながら計画を進めていくとよりよい取組につながっていくのではないかと感じます。

表紙にQRコードを利用した媒体等を掲載するなどの発想がなかったのも、とても参考になりました。また連絡先や具体的な教室等の案内について、どのように発信していくことがいいのか、再度、課内で検討してまいります。

桑野議長

それでは私から一つよろしいでしょうか。

この食育推進計画において私どもは、色々な分野のライフステージごとの代表者がこの会議に出席しています。代表者がこの食育推進計画を理解して、自分のライフステージのところでその目標値に向かって取り組んでいくための代表の委員ということで私は理解しています。

例えば最終案のP3の計画の位置づけのところですが、静岡市健康爛漫計画やその他にも色々な計画が掲載されていますが、第4次静岡市食育推進計画の例えば下のところに、乳幼児期から高齢期のライフステージがありますが、乳幼児期ではどこが関わっているのか、学童期は学校給食課、思春期の途中までは学校給食課といったように、その段階に応じた団体をきちんと明記しておく、もっとはっきりと各ライフステージの代表者がきちんと認識でき、第4次静岡市食育推進計画の目標に向かって、全体で食育を推進しているんだということが分かると思います。そのようなものがあると、よりこの計画が推進していくと感じました。

事務局

計画の位置づけの部分に、その関係団体等を含めた推進体制を、というご意見かと思うのですが、計画の整合性を国、県、市、市の内部という形の位置づけを明確にする部分でもありますので、その計画とそれを運営するための団体を混ぜてしまうと表記が難しくなってしまうので、ここでの掲載は難しいかと思えます。その代わりに計画の資料編の中に今

回の会議の設置条例などが入りますので、構成にもよりますが、ここの部分で表現ができればいいと思います。内部で検討させていただけたらと思います。

桑野議長

全てのライフステージに色々な方が関わっていて、静岡市の食育推進計画の目標に向かって頑張っていくという表現ができれば良いと思います。

その他いかがでしょうか。

皆様、本当に貴重なご意見ありがとうございました。

最終案全体に対してのご意見や数値目標のこと、表紙案のことなど色々のご意見をいただきまして、大変参考になりました。また、静岡市の食育推進に関するご意見もいただき、非常に有意義な会議となりました。

本日、委員の皆様からいただきましたご意見等については、今後、次期計画や食育への取組の参考にさせていただけたらと思います。以上で、本日の議事は終了しましたので、進行を事務局にお返しします。

事務局

桑野会長、委員の皆様方、長時間に渡りご審議いただきまして、ありがとうございました。

令和6年度の食育推進会議は年2回を予定しております。第1回会議開催は7月末頃を予定しております。今後よろしくお願いいたします。

以上をもちまして、「令和5年度第3回食育推進会議」を終了させていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

(閉 会)